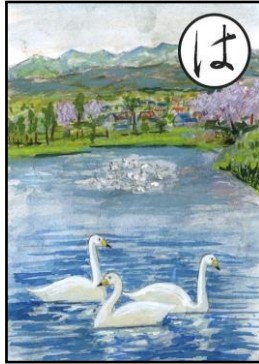


ねっとわ〜く from 大石田町

2023年 2月発行 会報 No.68号より

大石田かるたは、小・中学生に大石田町の歴史や文化などを知ってもらおうと、大石田かるた制作実行委員会を立ち上げて制作しました。読み札の裏には、その札に書かれた文言の解説文が記載されており、かるたで遊びながら大石田の良さを学ぶことができます。



は

は 春先に
白鳥集う
田沢沼

田沢沼^{たざわぬま}は、江戸時代のはじめごろ、新庄の殿様の命により灌漑用として造られたとされ、大堤^{おおつみ}と呼ばれてきた。現在では春には白鳥^{ひらいう}の飛来地として、さらにソメイヨシノ50本が咲く桜の名所となり、多くの人々が訪れている。大堤^{なかしま}の中島には三吉神社^{みやよしじんじや}が祭っており、堰堤^{せいでい}には、齋藤茂吉歌碑^{さいとうもきち}、森義八郎顕彰碑^{もりよしはちろう}が建立されている。

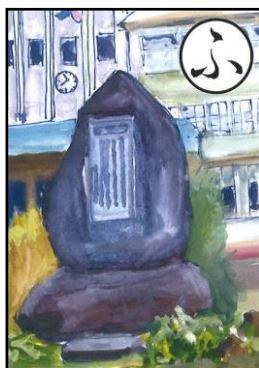
乗船寺^{じやうせんじ}は最上義光^{もがみよしあき}の郡代^{ぐんたい}と伝わる大庭内記^{おおばないき}高友^{たかとも}を大檀那^{おおだんな}として、1548（天文17）年明蓮社^{みやうれんじや}光譽^{こうよ}蓮岡上^{れんこうじやうげい}人を招請して開山した。本尊の阿弥陀如来坐像^{あみたにらいうざそう}（町指定文化財）は、室町時代の作である。また、経蔵内の釈迦涅槃像^{しゃかねはんそう}は、木造丈6尺5寸6分（201.5 cm）で1694（元禄7）年8月15日^{もくしきげいよ}、木食傾舎上人^{もくじきけいしや}の寄進によるものと記録が残っており、京都から運ばれたと伝えられている。



ね

ね 涅槃像^{ねはんざう}
気に入ったんだね
大石田

鈴木貞次郎^{すずきていじろう}（海谷出身）は、ブラジルに渡った最初の日本人で、ブラジル移民の父と言われている。日本からの移民をブラジルに受け入れてもらうため、産業組合を創設して移民する人を迎え入れた。また、移民指導の傍ら自作農を目指して自らも労働に従事した。学生時代には、正岡子規^{まさおかしき}に俳句と短歌の指導を受けている。大石田北小学校の前庭に顕彰碑が建立されている。



ふ

ふ ブラジルの
移民の父よ
貞次郎

大石田町のそばの種まきは、7月下旬頃から8月上旬に行われる。そばは、種まきからおよそ25日で真っ白な花が咲き始める。さわやかな秋風が吹く9月上旬がそば畑（そばの花）の見頃である。白い花はやがて実をつけ、赤い殻に覆われる。その実を10月中旬頃から収穫して石臼などで挽いて粉にすると、そばのかおりを発する。



そ

そ そばの花
白絨毯
秋空に

※画像データは大石田かるたを撮影したものです。文章は読み札の解説文、大石田町報より引用させていただきました。